

ふくすうのおとのべんきょう 1ぽじしょん

ぽじしょん：1のゆびが、なんふれっとをおさえるかをあらわす。



#(しゃーふ)：はんおんたかくなる→おさえるばしょが1ふれっとみぎになる。

♭(ふらっと)：はんおんひくくなる→おさえるばしょが1ふれっとひだりになる。

♯(なちゅらる)：#、♭のこうかをなくす。もとのたかさにもどる。

1 2 3 4 5 6

2 7 8 9 10 11 12

3 13 14 15 16 17 18

4 19 20 21 22 23 24

5 25 26 27 28 29 30

ふくすうのおとのべんきょう 1 ほじしょんできをつけること

○指の助つ人制度

異なる弦で同じフレットをおさえる時は、担当の指とそれより番号の大きい指でおさえる。

この時、低い音は番号の小さい指がおさえる。

例)④弦3フレットと②弦3フレットをおさえる場合

④3 F は、担当でもあり番号の小さい3の指がおさえる。

②3 F は番号の大きい助つ人の4の指がおさえる。

○おさえる場所

一番左のフレットをおさえる指はフレットのそばをおさえる。

※開放弦は含まない。

それ以外の指は、できるだけ指を横にひらかず、フレットとフレットの真ん中あたりをおさえてよい。

音符とフレットの場所を結ぶ練習なので、音はしっかりならなくて良い。

※指をたたんで、指先でおさえられるようになると音は出ます。

○おさえる時に左指、左肩の力を抜く

曲を弾くための準備として、弦をおさえる時に必ず左指と左肩の力を抜く。

特に3,4の第2関節がへこんだら、力が入りすぎなので力を抜く。

ふくすう おと におん かいとう
《複数の音 2音 1 ポジション解答》

ひくいおと じゅんばん かいとて
低い音から順番に書いております。

○で囲まれた数字は弦を、Fはフレットを表します。(例) ⑤ 3 F → 5弦3フレット

げんかいほうげん
①0F→1弦開放弦

- 1 ⑤3F ①0F
- 2 ⑤0F ③2F
- 3 ④0F ①1F
- 4 ⑤2F ②3F
- 5 ④3F ②3F
- 6 ④0F ③2F
- 7 ⑥1F ②1F
- 8 ⑥3F ①1F
- 9 ③2F ①1F
- 10 ③4F ②3F
- 11 ⑤3F ④2F
- 12 ③0F ②0F
- 13 ④1F ②1F
- 14 ③0F ①3F
- 15 ④3F ①3F
- 16 ⑥0F ④0F
- 17 ⑥3F ②3F
- 18 ④3F ②0F
- 19 ②1F ①0F
- 20 ④3F ③2F
- 21 ③1F ②1F
- 22 ④0F ②1F
- 23 ②3F ①1F
- 24 ⑥2F ②1F
- 25 ③3F ①1F
- 26 ⑥1F ①1F
- 27 ④2F ③0F
- 28 ③2F ②4F
- 29 ④3F ②2F
- 30 ⑥0F ②3F